

東尋坊イメージアップ大作戦 ～東尋坊愛のマラニック大会～

東尋坊愛のマラニック実行委員会 事務局 西出 憲榮

1：背景や必要性

(1) 東尋坊のマイナスイメージをプラスイメージに！

奇勝東尋坊は、国定公園に指定されているながら自殺者が多く、テレビドラマでも犯人が追いつめられるシーン等に利用されたり、あるいは東尋坊の名前の由来である東尋坊という僧侶が大酒のみで暴れん坊、それで住民等に断崖絶壁から突き落とされたという、悪と負のイメージが強い。また、旧態依然とした大型観光バスによる集客型の観光地で訪れる観光客数も減少している。そして物販流通が発達したことにより、お土産品等も地元らしさが薄れ、お土産店での購買費も落ち込んでいる。

そこで、東尋坊にプラスイメージを植え付ける企画をする。地元の大湊神社に伝わるもう一つの伝説「東尋坊、綾姫、真柄覚念の三人の若者が日本海の岩場で激しく恋の炎を燃やした」という説を表舞台に登場させ、東尋坊を愛の岬・恋人の聖地にしたい。

(2) 金沢にない福井らしさ

2015年3月14日北陸新幹線が開業した。金沢まで来た観光客に福井まで足を延ばしてもらうには金沢にはなくて福井にはある魅力で勝負するしかない。それは今は福井の住民すら気づかない郷土の料理やおもてなしである。

金沢百万石の豪華絢爛おもてなしではなく、福井らしい素朴で人情味溢れるおもてなし。地元の人が普段食べている郷土料理がランナーには最高のご馳走になる。

(3) 東尋坊も平泉寺も通過型観光地

東尋坊・永平寺・平泉寺・越前海岸など福井県有数の観光地は殆ど通過型観光地である。従って夕方からは日中の喧噪が一転して寂しくなる。

ピクニックとマラソンを掛け合わせたウルトラマラソン大会を開催し、早朝から夜まで15時間福井を楽しんでもらうためには、宿泊をする必要性が出てくる。宿泊客が増えることで、地元の民宿・ホテル・飲食店が活性化する。52kmスタート地点の平泉寺では宿坊での宿泊パックを用意し、地元の方たちが夕食・前夜祭などでもてなし、次年度の民泊へと繋ぐ。

(4) 過疎化した集落をマラニックコースにする

観光地を結ぶ途中の町や集落は過疎化や高齢化が進み若者をはじめ訪れる人も少ない。古い街並みや魅力ある街道が寂れている。しかし、そこには古い日本の原風景があり、時間がゆっくり進んでいる異空間がある。住民たちも速く歩いていない。

東尋坊と平泉寺を結ぶコースには平泉寺の杉の表参道、永平寺宮大工が作った古民家、九頭竜川沿いの石畳・三国の帯の街など素晴らしい風景がある。地元の人にとってはありふれた風景が実は観光資源になるという認識をもってもらおう。車道を規制するより車の通行が少ない生活道路をマラニックのコースに取り入れる事で住民の人達の世界へ入っていく、住民と触れ合うことができる。

2：実施内容

(1) 愛の東尋坊

東尋坊と綾姫・真柄覚念三人の恋物語を広めるべく、全てに愛の詰まったマラニックを企画した。

全国各地のマラソン大会のスタートは、号砲や太鼓・ほら貝などでスタート合図をしているが、東尋坊愛のマラニック大会では、愛の告白メッセージを書いた用紙を風船に取り付け参加者全員で「愛してるよ〜！」の掛け声をスタート合図とする。

エイドでは「初恋のトマト」「愛は勝つ。勝鬨素麺」「ほろ苦い片思いちょんがり味噌」「恋するチョコレートファウンテン」「情熱の胡ラーメン」「恋人に捧げるスイーツ」「永く愛して手打ち蕎麦」など愛に拘わるネーミングの給食を提供した。

完走者にハート型完走メダルと真紅の薔薇を渡す。最後のダメ押しで一日限りで制作したチャペルを鳴らし海に向かって「愛してるよ〜」と叫んでもらう。



(2) エイドでの暖かいおもてなし

① 郷土料理バイキング



永平寺名物胡麻豆腐ぜんざい



発坂ほんのり苦いちょんがり味噌



手打ちおろし蕎麦

東尋坊愛のマラニックはエイドが充実していて別名「グルメマラニック」 それもそのはず、エイド毎に郷土料理の目白押し。過疎化が進む集落では、自給生産した物しかなく、一生懸命手作りした物を振る舞う心づくしの行動がランナーに感動を与える。福井の旬の幸を一番おいしく料理できる地元の方が作るのだから美味しいはず。

丸岡の煮素麺は江戸時代丸岡藩主に献上したという伝統料理。ちょんがり味噌は生姜をちょっと入れた味噌で野菜につけて食べると美味しい。木の葉鮓はアブラギリの葉に包んだ鱒鮓で昔からの保存食。ワサビが効いた勝山ぼっかけは食事の最後に食べるごはんものでどんなにお腹がいっぱいでもするするっとうってしまう不思議な食べ物。炭火で焼いた里芋田楽は山椒がキリッとスパイシー。福井名物おろし蕎麦は手打ち、水羊羹も永平寺名物胡麻豆腐ぜんざいもすべて手作り。がさえび汁は地元三国でしか食べられない幻のエビを使っている。

これらは福井の人ならば普段から食べているので今更お客様に出すような料理ではないという認識だが、ランナーにとっては東尋坊愛のマラニックでしか食べられない貴重な料理。どれも素朴で地味な料理だが、優しい味で疲れたランナーの胃袋を満たしてくれる。こういった料理を福井の味としてアピールしていきたい。次年度はさらに新しい食材・料理を考案していく予定。



囲炉裏焼き田楽里芋



勝山元祖ぼっかけ



ゴールでがさえび汁



みずようかん



私設エイド冷奴で地元の方も応援



若鮎グループお手製看板

② あったかいんだから～おもてなし

福井の素朴な人柄が現れるのが応援。チアガールも太鼓もないけれど、地元のおばちゃんおじちゃんの声援がある。「がんばれ走る勇者」と書かれた看板を見て勇気を奮い立たせるランナー。ゼッケン番号を見て名前を連呼するおばちゃんに照れながらお礼を言うランナー。「お帰りなさい、よお 100 kmも頑張ったのお」の声に涙腺が崩壊するランナー。「福井までよく来てくれてありがとう」の気持ちが大きな声援になる。スタートから 22 か所の給水所の人達とのふれあいやランナー仲間同士の助け合いを重ね、ゴールの東尋坊へとむかう。できるだけ完走し、東尋坊へたくさんの愛が集まるよう、地元の人達の応援を求めていく。福井の人の温かさが最高のおもてなしになっていた。

(3) 宿泊型観光地への第一歩



ランナーはまずは温泉でゆったりと旅の疲れをおとし、白山亭で心のこもった郷土料理を味わった。コシアブラなどの山菜天麩羅は絶品！初めて会ったランナー達が旧知の友人であるかのように和気藹藹と食卓を囲み談笑していた。食後には地元の民謡や太鼓でランナー大歓迎ムードは最高潮。平泉寺の宿坊に泊まって翌朝元気に 52 kmの部をスタートしていった。三国でも民宿での宿泊パックが大人気。連泊する方が多く、二日目は三国の海の幸を味わいマラニック完走の快い昂揚感に浸っていた。

(4) 福井にしかない風景



飛び石は「龍の逆鱗」

平泉寺参道で大南選手がハイタッチ

三国帯の街

東尋坊～平泉寺間のコースは、出来るだけ地元の人達が生活している道路を使用する。ゆっくり時間が流れる異空間に選手たちに親んでもらう。東尋坊の岩場からスタート、麦畑を通ってくる風の路を走り、平泉寺の濃い緑に包まれた参道でミストシャワーを浴び、九頭竜川河川敷で川のせせらぎの音を聴き、三国帯の街では三国祭りの山車と併走する。実行委員会を選び抜いたコースを辿ると福井ならではの景色がランナーを迎えます。ランナーは変化に富んだコースを楽しみ（時には苦しみ）耳で肌で目で福井の良さを体感します。

3 : 東尋坊愛のマラニックの効果

① 地元の人の考え方が変化した

「こんなもん、うちらがいつも食べてるんやで、ランナーの人らに出すのはわるいんでないけ」と言っていた地元の人達。ランナーが「なんて美味しいんだ！これはどこで買えるんですか？」と絶賛すると、地元の人達は「そっか、うららが普段食べてるものが都会の人には新鮮に見えるんやわ」と納得。「来年はこれを出してみようかの」というように積極的になってきた。

「いつも通勤に使う道やけど、これがそんなにいいんかのう」という地元の方。永平寺宮大工が造った家はどっしりと構え、白い塗り壁が鮮やか。落ち着いた風情の中を走る心地よさをランナーは体感する。さらに歩いているおばちゃんおじちゃんがランナーに声をかける。「頑張れ～」と小旗を振って応援してくれる。町をあげて歓迎している。ある町では有線放送で「ただいま東尋坊愛のマラニックのランナーが当村を通過しています。みなさん外に出て応援してあげましょう」というアナウンスがある。恥ずかしがり屋の福井のおばちゃん達も、全国から集まったランナーを暖かくおもてなししてあげたいという気持ちになる。それには、エイドだけでなく、迷子にならないように誘導してあげよう、暗くなったらわからないからライトつけてあげよう』という積極的な応援へとつながる。

② 東尋坊のイメージがアップして自殺者が減少

2015年3月5日の福井新聞の記事です。

『東尋坊がイメチェンで自殺者半減 地元住民のパトロールも効果
福井県坂井市三国町の東尋坊周辺での昨年1年間の変死体認知件数は7件で、過去5年間に比べおよそ半数に減ったことが、県警坂井西署のまとめで分かった。警察や関係機関、地元住民らによる積極的なパトロールの効果で、自殺者が減っていることがうかがえる。イメージアップのための各種取り組みも功を奏しているといえそうだ。』

イベントで東尋坊のイメージアップを図る取り組みも進む。12年からは、地元有志らの実行委員会による「東尋坊愛のマラニック」が開かれ、悲恋の伝説に基づいた「愛の岬」とアピールしている。三国観光協会の小針悟会長は「取り組みが徐々に成果を上げているのではないか。東尋坊は、希少な岩肌や雄大な日本海を楽しむ場であってほしい」と話している。』

③ 宿泊型観光地へと脱皮

ランナーを受け入れた民宿や宿坊の人達は声をそろえて「面白かったわ。来年も来てもらいたいわ」という。平泉寺では来年は宿坊ではなく、一般の家庭に泊まってもらおうという機運が地元民から出てきた。すでに来年に向けて実行委員会が立ち上がり、民泊の協力を得るにはどうしたらいいか話し合っている。三国でも前夜祭をしようと地元まちづくり協議会を中心に企画している。

④ ランナーが太鼓判を押す大会に成長

ランナーからのお礼の言葉です

◎素敵な景色の中を走らせて頂き気持ちのいい一日でした。ボランティアの皆様の温かいおもてなしと美味しいエイドステーションの料理でとても元気を頂きました。ありがとうございました。大会運営もしっかりしていてとても楽しかったです。また出場したいです。小腹が空いたと思うと麺類やごはんがあり、疲れてきたと思うと塩気のあるものが出て温かいものがほしいと思うと温かいものが出、気分転換が必要と思うと甘いものが出、至れり尽くせりのエイドでした。ボランティアの皆様ありがとうございました。(横浜 杉田)

◎この大会はいい。ウルトラをいくつも走っている私が言うのだから間違いない。平坦で景色もよく宿も充実していてウルトラの登竜門としてでもうまく宣伝したらかなりの人が名古屋・大阪・東京(金沢見物+マラソン)から来るだろう。何よりも地域の人ボランティアが素晴らしい。わざわざ家の前に出てくれるおじいさん・おばあさんや路上であったおじいさん・おばあさんの笑顔で元気が出る。帰ってから自分も宣伝します!

◎さすが「愛のマラニック」、運営やエイドに愛があふれていました。エイドが最高! 手作りケーキが食べ放題とか、お替り自由のフルーツとか、最高です。甘いもの、辛いもの、温かいもの、冷たいものと組み合わせて提供いただく心遣いにひたすら感動しました。それにボランティアの方々、遠くから手を振って応援してもらってすごく力をもらいました。本当にランナー目線で作られた大会だと実感しました。本当に愛にあふれた大会、ありがとうございました、堪能しました^^ (あきのぼんさん)

◎なによりこの大会で一番印象に残ったのは「エイドが熱い!!」ランナーの姿を見かけるとものすごく遠くから手を振ってくれ、「お疲れさま〜」「すごいな〜」の声を掛けていただき、「あ〜エイドについた〜」と砂漠のオアシス感たっぷりでした。スタッフの方が「どこから来たん?」「このそばそこで手打ちしてんねんで」「イチゴは食べへんの?」「エネルギー蓄えな走られへんで」・・・としゃべる、しゃべる(笑)本当に楽しいエイドステーションを満喫させていただき、身体と心のエネルギー補充させていただきました。食事も福井名物が多く「ぼっかけ」「越前そば」等を美味しくいただきました。スタッフの皆さんのおかげで本当に楽しい一日でした。このコメントを少しでも多くのスタッフの方々に見ていただきたいです。ありがとうございました!!P.S. 今年の夏の家族旅行は福井県に決めました!!東尋坊愛のマラニック万歳!! (とっちまんさん)